

ニホンザル被害に対する複合柵の効果(飯舘村)

福島県農業総合センター 浜地域農業再生研究センター

事業名 福島県営農再開支援事業

小事業名 地域課題解決展示ほによる営農再開支援

研究課題名 サヤインゲン栽培におけるニホンザル被害防止対策の実証(飯舘村)

担当者 小野司・根本知明

I 実証技術の解説

1 要旨

ニホンザルが定着している地域では、サヤインゲンへの被害が懸念される。そこでニホンザル対策として県内外で実績のある「おじろ用心棒(複合柵)」(図1)を用いてサヤインゲンへの被害抑制効果を実証した。

ほ場周囲にセンサーカメラを設置し動画にて鳥獣の出没状況を調査し、サヤインゲンの収穫期間に被害と痕跡を調査したところ、サヤインゲンに対する被害や侵入の痕跡は確認されなかった。

- (1) ほ場設置前にはニホンザルの出没が確認されており(図 2)、ほ場設置後にも複合柵の近くまでニホンザルが接近していた(図 3)。
- (2) 複合柵内でサヤインゲンの食痕や足跡は確認されていない(表 1)。

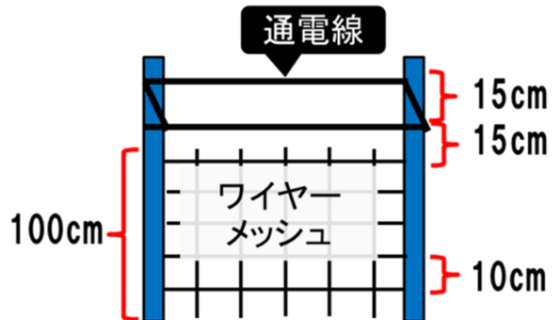
2 期待される効果

- (1) ニホンザルによる農作物被害を防止できる。

3 活用上の留意点

- (1) 通電線には絶縁性の支柱を使用し、ワイヤーメッシュの下部は地面に埋めるか 20cm ほど外側に折り曲げる。
- (2) 草丈がワイヤーメッシュより高くなると、漏電が発生しやすいため、草刈りや除草剤散布などの対策が必要である。
- (3) 収穫残さによる餌付け防止のため(図 4)、すき込み等が終了するまでは、防護柵を継続使用する。
- (4) 今回用いた複合柵では、ハクビシン、アライグマ、鳥類等の防除効果は期待できない。
- (5) 周囲 400mのほ場では、資材費として約 53 万円かかる。

II 具体的データ等



注) ワイヤーメッシュ下部は地面に埋めるか
20cmほど外側に折り曲げる

図1 おじろ用心棒（ワイヤーメッシュと電気柵の複合柵）
設置の模式図



図2 ほ場設置前に出没したニホンザル（4月15日）



図3 複合柵に接近するニホンザル（11月11日）

表1 サヤインゲン収穫期における複合柵設置ほ場
内の被害と痕跡の調査結果

調査日	サヤインゲン被害	鳥獣の足跡
7月10日	なし	なし
7月27日	なし	なし
8月30日	なし	なし
9月14日	なし	なし
9月26日	なし	なし
10月15日	なし	なし



図4 複合柵撤収後に収穫残さを採食するニホンザル（11月29日）

III その他

1 執筆者

小野司

2 実施期間

平成29年度

3 主な参考文献・資料

- (1) サルに有効な電気柵の紹介(兵庫県森林動物研究センター, 平成28年)